

第1回ひまわりの里基本計画策定委員会

日 時：平成31年4月21日（日）18：30～20：50

場 所：北竜町役場 2階会議室1

出席者：別紙名簿のとおり委員21名、事務局2名、傍聴10名

1 開 会 事務局 役場産業課 吉田係長進行

2 挨拶 高橋副町長～実施要領の説明も含めあいさつ

3 議 題

(1) 委員紹介 吉田係長

(2) 役員選出 吉田係長選出方法について諮ったところ、事務局一任の声有り、事務局より指名。

【委員長】 鈴木輝隆 氏 【副委員長】 佐光勉 氏 を選出。

以降、鈴木委員長により議事進行

(3) 概要説明 吉田係長より別紙資料説明

(図面、ひまわりの里、観光センター、ひまわりまつりイベント、アンケートについて)

→質疑なし

(4) 各委員より意見・要望の聴き取り

○ 学識経験者・専門家の委員より

【鈴木委員長】

- ・ 未来に向けた新しい発想で「ひまわりの里」を魅力的にしていき、通年を通して観光できる「ひまわりの里」を目指す。また、ひまわり以外による魅力アップも必要。そして展望台の老朽化による建替をどのようにすべきか、ひまわりが咲いていなくても食事などで訪れてもらえるようにするにはどうすべきかなど、色々なアイデアが必要になる。
- ・ 実現の可能か不可能は別にして、やってみたい事をどんどん出して欲しい。

【梅原委員】

(別紙資料に基づき説明)

- まちの顔が見えないまちが多い。そのような中で北竜町のアイデンティティを目に見える形にするという作業を1年掛けて行い、昨年末、「あかるい農法北海道ひまわりの北竜町」というワンフレーズを作成。田んぼとひまわりになぞらえた「ギンガムチェック」、人が明るいこと、そして米の情報を公表していることを表現する「あかるい農法」とした。
- 新しい価値を見いだす事のできるまち。自分たちが楽しんでいる事をよそから見てわかるまちにしなければならない。

ギンガムチェックの展開について

どれも北竜町というロゴは入っていないが、ギンガムチェックを見たら北竜町を思い出すように。白いTシャツにポケットだけギンガムチェックのものなど。1,000円程度でお土産販売すれば3億5千万円になる。

来訪者の増加策

迷路は、迷うから楽しい。今の迷路は入口と出口が同じ。管理しやすいがそれはこちら（北竜）の都合。

【田口委員】

(別紙資料に基づき説明)

- 保育所もひまわりの里の基本計画に関係性を作り、園児だけではなく町民も近くを感じる事が出来る建物になってほしい。
- ひまわりの里を中心にその周りの施設を自然と回ってしまうように整備。
- 展望台を井桁構造で補強する。
(敢えて言わずに、来た人にギンガムチェック柄を発見させる)
- 今の観光センターは外との繋がりが薄いので壁を取っ払い外と繋げることで建物の中にもひまわりが見えるようにする。
- 夏はひまわりが見えるオープンテラス。冬は閉じて土間体育館にする。

展望台建設スケジュールについて

基本計画策定後、設計を行うべき（展望台だけを先行して設計しない、するべきではない）。計画は非常に大切であり、急ぐべきではない。どうしても展望台が必要なのであれば既存展望台を補修。建て替える時に地元産の木材を使うにしても乾燥期間等時間がかかる話。

【谷垣委員】

(別紙資料に基づき説明)

- 昨年ひまわりライス（ななつぼし）を買わせてもらい、大阪の10店舗でテスト販売した。メニューは「とり天むす」と「焼きむす」。すると半年後の居酒屋メニューランキングでトップ5以内に。これまでご飯ものが上位に入る事はありえなかった。
- 流通コストが課題だが、安心なお米（生産公表JAS）は強み。
- 居酒屋では通常100グラムのモノを50グラム80円で販売。小さくする事によってスナック感覚で色々な種類を食べてもらえる。
- 通常スーパーで売っているお米は5kg 2,000円程度。それをマルシェで加工して売ると5kgで20,000円ほどになる。それなら生産している北竜町民がオリジナルの焼きおむすびを作って20,000円で売ったらどうか。焼きおにぎりはロスも少ない。ひまわり油を加えて、北竜町だけのオリジナルに。

【石川委員】

- ひまわりの里において、ひまわりを下から見上げるとか、ターザンロープでひまわりの上を空中散歩するなど、どうやって気持ちよくお金を落としてもらえるか考えなければ。消費者の選択肢を増やし利益を生む手段を考える。
- ふるさと納税でひまわり畑のオーナー制にして、看板を立ててその畑の油を送るなど。

————— 以降、各委員（町関係者）より自由意見 —————

○ 町関係委員より

① ギンガムチェックの展開について

- ・ギンガムチェックの利用制限、著作権は？

→【梅原委員】状況を把握するためにも一度梅原委員に確認さえさせてくれれば自由に使ってかまわない。梅原チェックという大まかなルール。細かいルールは後々作ればいい。
(役場企画振興課を窓口とする)

- ・Tシャツ等いいアイデアだと思うが、誰が作るのか。

→どこが作ったらいいのかを含めてこの策定委員会で考えていく。

② 焼きおにぎりの展開について

- ・焼きおにぎりは保健所が厳しく、観光センターのブースでの販売は難しい。冷食であれば問題ない。ひまわりライス焼きおにぎりを冷食で作ることはできないか。

→冷食だと売れないので厳しい。

- ・私の団体で「たいやきおにぎり」というもの企画している。観光センターで出したいと考えている。ご飯の量は一膳ぐらい。

→【谷垣委員】保健所に粘り強く掛け合ってほしい。

→【梅原委員】マルシェの焼きおにぎりが成功したのは、通常の半分のサイズで商品化した事。いろいろ食べ比べる事ができる。

③ 来訪者の増加策

- ・ひまわりは最初、スナックや油などで使用されていた。だんだんひまわり自体が商品となった。北竜は農業のまち、農業が観光にならないと長く続かないと思う。

- ・「あぜ道を歩く」とか、「ひまわりの種まきや草取り」「ひまわりの種拾い」などの体験観光はどうか。

- ・冬であれば雪でひまわりを作る。眺望の丘からタイヤチューブ滑り。

- ・1日だけではなく長期滞在できるように、連泊なら宿泊費を安くするや。家族何人来ても10万円など、長期滞在させるための企画があってもいいのでは。

- ・いま本州で北海道に泊まりで農業体験したいという人が待機だけで2万人いるということを聞いたことがある。例えば楽しい農業体験でもなくても来るのではないか。

→【梅原委員】トラクター乗車体験、田植機体験なども考えられる。

- 体験型観光、ひまわりを長く続けていくために必要。
- 黒千石大豆の収穫体験と黒豆ごはんづくりをしている。
- 黒千石を使った化粧品開発という話も出ている。

④ 展望台改修について

- 今年、展望台を解体して更地にするという話を聞いたが、展望台のないひまわりの里はあり得ない。
- 展望台は単なる展望台ではない。ひまわりの里において無くてはならない設備と考えている。
 - 【佐光副委員長】展望台の件については、（解体しないよう）観光協会から要望する。
 - 【田口委員】既存の展望台を生かし、ちょっとのアイデアで補修を行っては？

⑤ ひまわりの里の整備について

- 展望台の所の畑の排水路を埋めて、横向きにひまわりを植えるようにすればもっと美しいランドスケープになる。展望台を建て替えるなら、階段の付け方について上り下りを別々にする検討をしてほしい。

⑥ 観光センターの改修について

- 観光センターも老朽化、世界のひまわりコーナーの方に建設し、その屋上を展望台にするのはどうか。

⑦ その他意見等

- この会議で何を決めていくのか分からない。
- 若い人の意見を聴きながら、展望台、観光センター等、全体計画とリンクして将来に向かって前向きに検討したらいい。
- 行政の立場として色々な意見を聞く事ができて大変有意義。
- 梅原デザインのおみやげや、おにぎり、前向きに検討したい。自分で油搾り体験も考えてみたが、実現できないと諦めていた。
- みんなが豊かになってくれるようなひまわりの里づくりを。
- ひまわりに取り組みだしたのが平成元年、そしてこの改元のタイミングで、このように計画を策定するタイミングを迎えている。